

**ブラジル
アマパ・イニシアティブ
現地からのお便り**

2018年8月
コンサベーション・インターナショナル

ブラジルにおける「“空気をはぐくむ森”プロジェクト」は、アマパ国有林とアマパ州有林という2つの保護地域の保全に貢献しています。活動を通じ、自然資本を守ることによって、人々の幸福にとって欠かすことができない環境サービスを提供しつつ、2つの保護地域の内部及びその周辺に住むコミュニティの生計を改善することを目指します。

自生種の種子の採集に関する能力開発

4月、アマパ国有林とアマパ州有林のあるアラグアリ川の上流域で、自生する樹木の種子の採集に関する研修が行われました。アマゾンの森で取れる種子は、バイオ化粧品の原料として使われます。研修は、コミュニティが現金収入を得るための選択肢として自生種の種子の販売を考えるのに貢献します。

ボムスセソ協会から15名が研修に参加しました。研修では、主な樹種の季節周期、種子の収集計画、収集場所の定め方、樹木の位置のマッピング、種子の収集・運搬・乾燥・保管・品質管理、コスト計算等について学びました。

木のでっぺんから種子を採集するための研修

樹種によっては、種子を採集するために木に登らなければなりません。しかし、アマゾン地域で木登りをする人の多くが適切な技術や道具を持たず、危険を冒して木に登っています。そのため、安全に種子を採集するためにも正しい技術を身につけることが大切です。

3月、ボムスセソ協会の10名を対象に、木登り技術を理論と実践で学ぶ研修が行われました。まず、種子採集者の仕事や責任、安全、道具、道具の保管、樹冠の様子の評価、樹冠にいるかもしれない動物などについて座学で学びました。続いて、道具の使い方や木登り技術に焦点を当てた実践を木とヤシで行いました。

木材に関するワークショップ

5月、CIブラジルとパートナーは、Serra do Navio地区の13名の人々と5日間にわたるワークショップを開催しました。アマパ州政府からライセンスを得るために必要な持続的な木材生産のための管理計画の中で、修正が必要な項目を特定するなど、コミュニティが木材市場中で公正なビジネスができるよう、戦略を考えました。

非木材林産物に関する視察

11月13日～20日、アマパ州内のカジャリ川保護区において、ボムスセソ協会とSerra do Navio地区の人々30名を対象に、非木材林産物を使った製品づくりとその管理に関して経験を共有するための視察を行いました。

アグロエコロジーに関する視察

2月28日～3月5日、11月13日～20日、2つの地域で、アグロエコロジーの優良事例を学ぶ視察を行いました。ボムスセソ協会と Serra do Navio 地区の人々25名が参加しました。アラグアリ川と Serra do Navio 国立公園周辺のコミュニティが環境に不可の少ない農法を用いるようになることを促す取り組みです。